

## オープン市場短信 (2012年10月)

2012.10.11

### ◆ 9月のCP市場動向

9月のCP月末残高は、前月比1兆1225億円減少し14兆3128億円となった。中間期末にあたり、有利子負債圧縮目的で多くの企業が残高調整に動いた。業態別では、一般事法が大幅減少した。特に、鉄鋼・電気機器・建設等での大幅減少が目立ち、輸送用機器を除き多くの業種で前月を下回る結果となった。金融機関も資金調達ニーズが後退した為か、減少となった。期末要因で、ABC Pは大幅増加し、3ヶ月ぶりに2兆円台に復活。その他金融が微増となった。

### 【業態別残高内訳】

(単位:億円)

業 態	9月末残高	8月末残高	増減
一般事法	40,917	55,567	▲ 14,650
その他金融	55,302	55,084	218
金融機関	25,137	26,247	▲ 1,110
(政府系金融	540	730	▲ 190 )
( 銀行等	10,802	11,591	▲ 789 )
( 証券	13,795	13,926	▲ 131 )
ABC P	21,772	17,455	4,317
計	143,128	154,353	▲ 11,225

(注:買入消却分含む)

発行レートは、総じて上昇傾向にあった。

電機機器や関連リース銘柄に対しては、投資家の慎重姿勢が強まった。

その他のリース銘柄や一般事業法人に関しても、CPオペレートの上昇に伴い、年越え物中心に強含んだ。景況感の先行きに不透明感が広がっており、業績の悪化懸念が生じている。中間決算発表を控えていることも、投資家の姿勢に影響を与えていると思われる。一方、期間の短い発行案件では、足元の資金余剰が強く、低位安定にて推移していた。

【格付け別の発行レート】

9月のCPLレートレンジ

(単位 %)

格 付	1ヶ月	2ヵ月	3ヵ月
a-1+(一般事法)	0.1060% ~ 0.1150%	0.1070% ~ 0.1900%	0.1090% ~ 0.1950%
a-1 (一般事法)	0.1050% ~ 0.2000%	0.1080% ~ 0.2400%	0.1130% ~ 0.1490%
a-1+(リース銘柄)	0.1030% ~ 0.1055%	— ~ —	— ~ —
a-1 (リース銘柄)	0.1069% ~ 0.1390%	0.1070% ~ 0.2800%	0.1090% ~ 0.1900%
a-2	0.118% ~ ケ 0.25	0.280% ~ ケ 0.35	0.142% ~ ケ 0.45

《CPオペ》

CP等買入オペは、6日・14日・24日と3回の入札が行われ、オファー額は各回3千億円にて実施された。いずれのオペも応札ニーズは強く、平均・足切りレート共に上昇する動きとなった。期末要因及び一部銘柄の売却ニーズが強かった為、ディーラーが積極的に応札したためと見られる。

月末の買入オペ残高は、1兆3307億円（前月比1236億円減）であった。

日銀(資産買入等の基金)によるCP買い入れオペ実績

(単位:億円)

実施日	実行日	オファー金額	応札額	落札額	按分・全取	平均落札	按分比率
9月6日	9月11日	3,000	7,373	2,830	0.122%	0.126%	92.2%
9月14日	9月20日	3,000	6,721	2,990	0.126%	0.129%	57.8%
9月24日	9月27日	3,000	6,400	2,991	0.129%	0.132%	22.0%

《短期社債登録状況》

証券保管振替機構によると、9月中は新規発行及び登録を行った企業は無かった。9月末時点における通算の発行企業数は521社、発行登録企業数は497社となり2ヶ月連続で横這い。

《CP現先市場》

現先(S/N)レートは、9月中は落ち着いて推移(0.10%近辺~0.105%)していたが、月末近辺に若干上昇した(0.105%~0.100%後半)。

◆ 10月のCP市場予想

10月中のCP償還額は、9月末時点で約2兆7000億円と、前年同月の償還額(約3兆300億円)を下回っている(除く、ダイレクトCP・金融機関発行CP・ABC P)。

今月の発行動向は、中間期末で残高を落とした企業の復活発行等が予想されるため、新規発行増が見込まれる。しかし、企業のCPによる資金調達ニーズの低迷が続いており、

最近3ヶ月の月末発行残高は前年同期を下回る動きとなっている。従って、今月末残は14兆円台後半に止まると思われる。

発行レートについては、年内物や最上位格付け及びレア銘柄については、引き続き低位安定推移を予想する。最上位格付け銘柄については、とりわけ投資家の運用ニーズが強い。今年に入り、最上位格の格下げが多くその数が減少していることも影響している。

一方、電気機器やその関連銘柄は、業績悪化等により投資家のクレジットリスクの高まりから、レート上昇となっている。今後も、その業績如何でのレート動向が注目される。

一般事業法人（a-1格）3M物では、0.100%台後半～0.20%台、その他金融で0.110%台後半～0.15%前後を予想する。

10月3日に発表された日銀短観の「参考系列」CP発行環境DIによると、発行が「楽である」と回答した企業数が減少する結果となった。製造業では、CP発行が厳しいと答えた企業が4ポイント増加し、前回比では10ポイント低下となっている。主に電気機器関連と思われ、発行レート上昇等に影響が現れている。

#### 《CPオペ》

今月は、4日（実施済）・17・24日と計3回の入札が実施される予定。

4日実施済分のオペについては、期末要因の剥落と応札玉の減少もあって、按分レート・平均レートともに低下する動きとなった。

次回以降のオペについては、ディーラーが手持ちする保有玉の増減如何ではあるが、やや低下する方向と思われる。月末オペ残高は、1兆7000億円前後を予想。

#### 《CP現先市場》

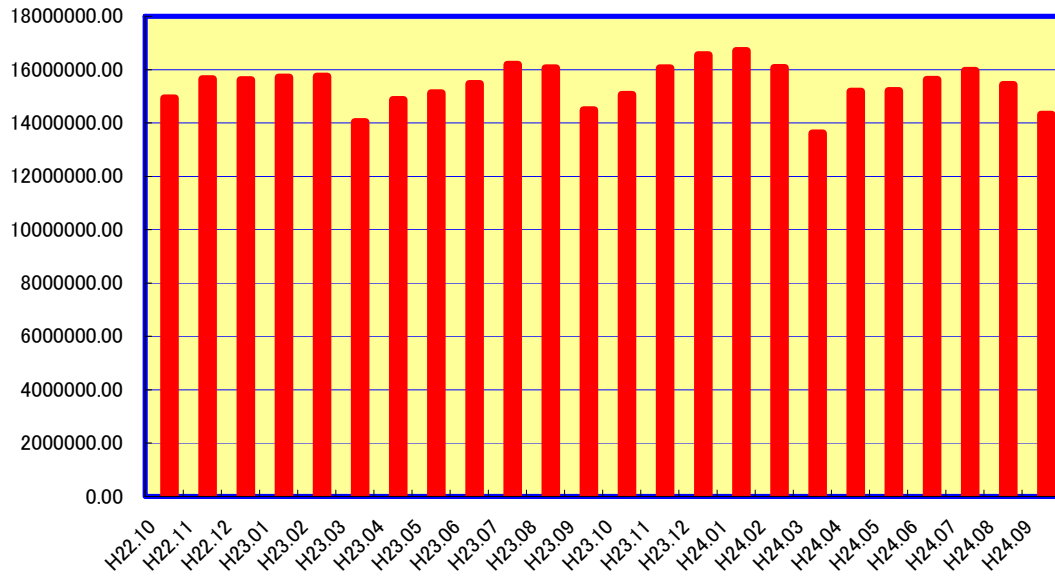
日銀の潤沢な資金供給姿勢は、今月も変わらないだろう。インターバンクレートは0.08%前後での推移。レポレートは、今月も余り動意のない状況が予想され、0.100～0.102%近辺の出合いであろう。CP現先レートは、0.100%～0.105%近辺での出合いを予想する。

**参考資料**

**短期社債月末残高** (22年10月～24年9月)

発行登録企業：497社（発行実績あり521社）

(過去2年間の残高を表示)



9 月末発行残高ベスト 20

9 月末発行残高上位 20 社

(単位:百万円)

	発行企業名	9月末残高	8月末残高
1	三井住友ファイナンス&リース	761,800	709,300
2	三菱UFJリース	709,300	736,200
3	コンチェルト・レシーバブルズ・コーポレーション	683,590	580,790
4	東京センチュリーリース	606,300	590,100
5	みずほフィナンシャルグループ	500,000	500,000
6	三菱UFJモルガンスタンレー証券	422,100	384,300
7	エイペックス・ファンディング・コーポレーション	380,270	305,900
8	JXホールディングス	372,000	404,000
9	興銀リース	335,000	336,400
10	アルカディア・ファンディング	333,020	318,000
11	JA三井リース	330,000	318,000
12	芙蓉総合リース	326,200	322,200
13	パナソニック	300,000	380,000
14	大和証券	262,880	208,580
15	みずほ証券	249,300	275,700
16	関西電力	218,000	246,000
17	野村証券	217,000	280,000
18	フォレスト・コーポレーション	210,543	141,706
19	オリックス	206,600	229,800
20	ホンダファイナンス	198,000	199,000

参考出所 (株)証券保管振替機構

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性について保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。

上田八木短資株式会社

登録金融機関 近畿財務局長(登金)第243号

大阪本社 〒541-0043 大阪府中央区高麗橋2丁目4番2号

東京本社 〒103-0022 東京都中央区日本橋室町1丁目2番3号

加入協会 日本証券業協会